

令和元年度鳥取・広島両県知事会議

日 時 令和2年1月10日（金）
13：00～14：15
場 所 大江ノ郷ヴィレッジ 2階会議室

■加藤部長 皆さん、大変お待たせいたしました。それでは、ただいまより令和元年度鳥取・広島両県知事会議を開催させていただきたいと思えます。

私は、本日の司会をさせていただきます鳥取県令和新時代創造本部長の加藤でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、開催県でございます鳥取県の平井知事から御挨拶を申し上げます。

挨拶

■平井知事 本日は、ここに、ようこそ湯崎知事にお越しをいただきまして、本当にありがとうございました。また、松井様はじめ、広島県の皆様にも朝からこちらのほうにお越しをいただき、これまで智頭のほうの石谷家住宅、さらには、OOE VALLEY STAYのほうに行ってくださいまして、いろいろと見ていただけたかと思えます。

都会のよさというのはあると思うんですけども、きょうも議題の一つ、湯崎さんのほうから御提案もございしますが、中山間地、今、都会にない、こういうすばらしいものがまた別の形で表現できたり発信できるということも感じていただけたら幸いです。きょうは、これからぜひ令和という新しい時代をこの中国地方から、広島県・鳥取県、タイアップをして進めていく、そういういい機会にできればというふうに思えます。

ここ、大江ノ郷も私たちの一つの自慢になってきました。今では観光地になりました。これも卵の生産から始まりまして、おいしい食べ物、さらには、すばらしい景色、そういう中山間地の拠点になり、海外からもお客様が来るようになりました。

そういう中で、両県、例えば観光ですとか、地域おこしでありますとか、さらには地方分権の挑戦、湯崎さんのほうからも、立法の分権ということをさらに進めたいというお話はかねてございまして、また、交通を結節点を強めていく、また、インバウンド観光やサイクリングなども進んでまいりました。いろんなテーマでこれまでお互いの共通項ができて、実行も伴ってきたというふうに思えます。きょうは、こちらのほうをごらんいただいた上で、ぜひまた中身のある協議ができればというふうに思えます。

「ミタイケンひろしま」という新しいテーマをつくられてまして、実はこちらも「何々けん」というのは、特に西部のほう等は同じような言葉でございます。湯崎知事もだんだんしゃれがわかってきたのかなというふうに思いますが、私たちも、これでしたらやはり改名をして、うちは「キタイケン」、期待を込めた県と、行ってみたい県と、そういうようなことでまたタイアップできたらなというふうに思うところです。

実は、大正の御代に明治からかわったときに、志賀直哉が尾道に家を構えられました。そのときにつくられた小説が「暗夜行路」でございます。「暗夜行路」は、最後の舞台は鳥取県のほうにやっけてまいります。「大地を一步一步踏みつけて、手を振って、元気よく進まねばならない。急がずに、休まずに。」こういうすばらしい文章がそこから生まれたわけでありまして。当時から鳥取、そして広島、お互いに一步一步踏み締めながらこの歩みをしてきたんだと思いますが、きょうもその新しい令和の踏み出しとなればというふうに思うところであります。

ここは大江ノ郷というふうに呼ばれております。きょうの会議が結果も伴って、おお、ええのうと言っていただけのように頑張りたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。ありがとうございました。

■加藤部長　　そういたしますと、続きまして、湯崎広島県知事様から御挨拶を頂戴したいと思っております。よろしく願いいたします。

■湯崎知事　　駄じゃれについてはまだ修行中の身でございます、広島県知事の湯崎でございます。このたびの会議の開催に当たりまして、平井知事をはじめとして鳥取県の皆様方には、大変御配慮をいただきましてまことにありがとうございました。

この会議前、今、平井知事からも御紹介ございましたけども、まずは国の重要文化財であります石谷家住宅のほうにお邪魔をさせていただきました。3,000坪という敷地だということで、お庭だけで300坪という大変壮大、壮麗な住宅でございました。また、木が、非常に大きな梁、アカマツを使われる、また、ケヤキを使われる、そして板張りにはクリの木を使われる。なかなかもう今では見ることもできないようなすばらしい木を使ってつくられた住宅でございました。これはもう本当に、かつて地方に、いかにすばらしい文化であるとか、あるいは豊かな経済があったかということを示すものであろうかと思っております。

また、先ほどは、OOE VALLEY STAY、これは廃校された小学校をリノベーションしてつくられた施設でございましたけれども、これも地域のせつかくある、残っている資産を活用したすばらしい施設だというふうに感じたところでございます。まさに、このように持っている資産をいかに活用していくかということが地方創生においても非常に重要であるという、その実例であったかというふうに思います。

また、今日のテーマに、災害、防災がございますけれども、昨年も、一昨年に引き続いて、日本全体で見ますと非常に大きな災害がございました。災害の中で最優先に取り組むべき対策というのは、やはりいかに生命を守るかと、そのためには避難をしていただくということ、これが最大の課題ではないかというふうに思っているところでございますが、鳥取、広島とも、この取組、しっかりと正面から受けとめて取り組んでいるところでございますので、本日はまた意見交換をできればというふうに思っております。

さらに、我々が、今直面しているもう一つ大きな課題として、デジタル化への対応というのもあるかというふうに思っております。これについては、鳥取には鳥取砂丘があると常々、平井知事が御自慢をされるわけですが、残念ながら広島県にはそんな大きな砂場はないということで、我々は、ひろしまサンドボックスということでデジタル砂場をつくることをいたしまして、そこでつくっては壊し、つくっては壊しという取組を進めておりますけれども、後ほどまたこういった取組も御紹介させていただければというふうに思っております。

これら一連、地方創生にかかわることでございますが、地方創生も5年目を迎えます、国のほうでも新たなまち・ひと・しごと創生総合戦略が策定をされております。ただ、一極集中が、これはブレーキもかかっておらず、課題は満載かというふうに思います。ぜひ鳥取、広島両県で力を合わせて、この地方創生、大きく花開くように、これからますます力を入れて取り組んでまいりたいというふうに思っております。

本日は、そこに向けての新たな一歩となるように、有意義な会議となるように努めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いをいたします。

■加藤部長　　ありがとうございました。

そういたしますと、ただいまより意見交換に入らせていただきたいというふうに思います。

今、意見交換に入る前でございますが、お手元の飲み物を、それからお菓子の、お茶受

けのほうを御準備させていただきたいと思いますが、この飲み物につきましては、広島県産のレモンを使用したレモネードを本日準備させていただきました。また、少し時間を置いて、大江ノ郷特製のパンケーキ、これを御用意させていただいておりますので、大江ノ郷の平飼いの天美卵を使用した非常にふわっとしたパンケーキでございます。ぜひ会議をしながらお召し上がりいただけたらというふうに思います。

そういたしますと、お手元の次第に沿いましてお話を進めていただければというふうに思います。進行につきましては、平井知事、よろしく願いいたします。

①防災減災対策の推進

■平井知事　それでは、早速議事のほうに入らせていただきたいと思います。

まずもって申し上げなければならないのは、2年前の集中豪雨、大変な被害がございました。7月豪雨で亡くなられた方、お悔やみを申し上げたいと思いますし、今なお御不便な生活をなさっております皆様にお見舞いを申し上げたいと思います。

こうした状況はそれにやむことなく、昨年も台風15号、19号を中心としまして大変な被害が列島を襲ったわけでございます。やはり地方にとりまして、そういう課題というものを考えるときに、命の問題、それから生活の問題、それを守ることはまず大前提となるべき課題であります。

実は私もびっくりしたんですけれども、広島湯崎知事のところでは7月豪雨の成果を一つにまとめられまして、さまざまな、いろんな反省点等も含めて総括をされた電話帳みたいな研究をまとめられました。こういうものを後世に教訓として生かさなければいけないと思います。私たちも中部地震という地震がありまして、それから復興への道をたどり、今、ほぼブルーシートの屋根が取れるというところまでやってくることができました。私たちも地域で助け合いながら生活安全等への、私ども、災害ケースマネジメントと呼んでいる手法があるんですが、そうしたことなども含めてやっているところでございます。これが特徴的なものとして、NHKの「クローズアップ現代」などでも取り上げていただいているところであります。

今出てきたのがパンケーキでございますので、どうぞちょっと召し上がりながら進めていただければというふうに思います。本当は菅官房長官に食べてもらおうかなと思ったんですけども、来られたのは境港だったものですから、ちょっとお出しできなかったんですが。

そういうようなことで、いろんな課題がクローズアップされてきたと思うんですね。今、鳥取県でも、昨年の災害を教訓として防災と逃げ方の研究会をやったり、また、治水についての研究会をやりまして、例えば堤防の天端を丈夫にする、あるいは水が越水したときの、向こう側についてはいまだ余り手当てがないんですが、そこに防水シートのシート工をしていく、こういうことなどで堤防の強度を高めるということなども。

(パンケーキ配膳) あっ、どうぞ召し上がりながら、はい。

やっていけばというふうに考えております。これを鳥取県独自でもさせていただくんですが、やはり広域的に対処すべきこともいろいろとあると思うんですね。一つは、避難用の物資等、そうした防災対策であります。こういう資材などがやってくるときに、中国地方広域で倉庫だとかいろんな流通ルート、既存の会社のものも利用しながら進めるべきではないか、今、中国5県でもその連携の可能性は高まってきているというふうに思います。ぜひそうしたことなどの連携を図ったり、また、ソフトウェア的なことも可能性があるのではないだろうか。もちろん福祉のDMATのような形のものとか、そうしたそれぞれの得意分野を生かした広域災害応援ということもあるのではないだろうか。いろいろと私どもでも共通してできることはあるのではないかなというふうに思いますので、ぜひ湯崎知事にもそうしたこと、御教示をいただいて、この場でも意見交換ができればと思います。

よろしいですかね、じゃあ、よろしく願いいたします。

■湯崎知事　　せっかくですので、少し私がしゃべりますので温かいうちに召し上がってください。

今、平井知事から広島県の一昨年の豪雨災害における総括のお話もしていただきましたけれども、私ども実はそれに続きまして、避難行動についてさらに検討、研究を進めているところでございます。お手元に資料配付をさせていただいていますが、広島県提出資料①というものでございます。

これは、面接を500人規模で行いまして、それから郵送による調査を5,000人、これは主に今回被災をした地域の方々を対象に行ったのですが、一体どういうことが避難につながるのか、あるいは何が避難を押しとどめるのか、そういったことについて研究しております。

昨年12月には中間報告を発表していますが、これは裏面のほうになるろうかと思えます。左側のほうをご覧くださいますと、早い、いわゆる立ち退き避難を促す要因としては、地

域の災害リスクを正しく把握をしているということであるとか、あるいは避難場所として家族や知人の家というのも想定をできるとか、そこが要するに快適な避難先であるということですね、あるいは安心できる避難先である。あるいは近隣の異変を察知するということが、また、家族や親族であるとか、あるいは近隣の人、消防団等から避難を呼びかけられるといったようなことが上げられます。

そして、こういったことを踏まえた今後の対策といたしまして、県民の避難の実効性を高めるために災害を可視化する。今、VRとかARとかもございますので、そういった技術を活用した疑似体験、こういったことを通じて豪雨災害について正確なイメージを持つということが必要である。また、普段から、これは行政の側から、避難場所というのはこんな環境なんですとか、ペットは受け入れられますよとか、あるいはここは難しいですと、あるいはここは避難所だったら受け入れられますよといったような情報ですね。これを適切に発信するということが。それから、当日には駐車場がちゃんと空いているよとか、あるいは避難場所までの安全性といったようなことについての情報を出す。そして、他者からの呼びかけによって避難の実行可能性を高めていくといったようなこと、こういったことが必要だろうということを提言いただいております。これも最終報告をまた近々つくってまいりますので、共有をさせていただきたいというふうに思っています。

それから、今、平井知事からも御提案ございましたけども、さまざま協力できることがあるのではないかと。備蓄物資のお話もございました。それから、ソフトウェアというもの、我々、一昨年の災害のときに非常に大規模で広範囲だったものですから、被害の全容を把握するのが非常に苦勞をいたしました。これはそれぞれの警察であるとか、あるいは消防といった、それぞれの機関でも非常に苦勞をしたという現実がございます。そういったものをリアルタイムできちっと把握をして、災害対応に生かすことができるようなクラウドベースのシステムをつくっていくことが必要ではないかなと思っております。こういったことは各県共通の課題だと思いますので、連携しながら検討を進めることもできるのではないかなというふうに思っております。

いずれにしても、今、平井知事から御提案あったことを含めまして、両県あるいは、場合によっては中国地方の各県で連携をしながら検討したり、あるいは準備をしたり、用意をしたりといったことはできると思いますので、また事務的に詰めていくことができればというふうに思います。

■平井知事　ありがとうございます。まさに、おっしゃったこと、私たちも同様に問題意識、強く持っております。いま、防災危機管理の防災避難の研究会をやっていますが、この間の台風19号でも、例えばペットの避難場所がなかったがために家にいて、それで残念ながら命を落としてしまった、そういう人も残念ながらいらっしゃいました。やはりペットごと避難できる環境というのを整えなきゃいけない。それから、今おっしゃったように、みんなで助け合って、特に一時的な避難場所というのは必ずしも学校の体育館でなくてもいいはずだと。本県でも、そういう緊急避難を地域の集落ごとにつくるような、支え愛避難所ということ始めております。そうしたところでも一定の物資なり防災グッズをもって対応しようということ始めております。ぜひ、そんなようないろんな経験とか知恵があると思うんですが、広島県さんとも共有させていただきたいなと思いますし、私どもも研究会、終わりましたら、またその状況も御説明、共有をさせていただきたいというふうに思います。

そういう中、今お話がありました、いざ災害が起こったときに、例えば県とか市町村、あるいはほかにも警察だとか自衛隊だとかいろいろとセクターがある中で、それぞれが持っている情報を共有して、速やかに分析し、どこに重点的な部隊配置を行うか、対策をとるかというのは喫緊の課題ではないかと思います。鳥取県でもそうしたことを進めようということで、かつて県と市町村の共同システム開発を検討したんですが、結構経費もかかるということでございまして、現在、今、新年度に向けて危機管理情報共有基盤という、そういうデータベース、これは一般社団法人がやっているところなんですが、そういう危機管理情報共有基盤というところに本県も加入をして、地図情報、GIS情報上にそうした情報共有を関係機関で図っていくと、こんなようなことを今、まずはやってみようかなということを考えております。

湯崎知事の御提案もすばらしいと思いますので、ぜひ中国5県の間でもこういういろんな研究なり実践の成果を共有し合って、そうした初動で役立てていければというふうに思います。

本県でも避難が迅速に行われるように避難スイッチという、京都大学が開発した手法を今導入しようとしているわけでありますが、例えば山の様子がこんななったとか、川がこういう状況が出た、そうしたらもう避難しよう。こういうように避難のタイミングというのを自分たちで見つけて、それで村丸ごと避難場所へ行くというようなことを推奨しようということも始めようとしていますし、支え愛マップというマップをつくって、災害

弱者対策も兼ねて地域での助け合いを進めようとしております。そのようなこと、いろいろと今も御報告、丁寧にいただきましたが、共有できることは非常に多いと思いますので、この防災・減災で共同事業を展開していければと思います。

この点はよろしいですか。

■湯崎知事 はい、ぜひ共同というところで、よろしく願いをいたします。

②地方創生の推進、③中山間地域の振興

■平井知事 それでは、次のテーマに移らさせていただきたいと思いますが、地方創生、それから中山間地の振興につきまして、まずは湯崎知事のほうから御提案をいただければと思います。

■湯崎知事 それでは、私のほうから御説明をさせていただきたいと思いますが、地方創生というのが、やはり目標の一つというのは地方へ人の流れをつくるということだというふうに思っております。今、東京一極集中、ますます進んでおりますけども、過度な集中というのは是正をしていかなければならないというふうに思っております。

実際には、こういう議論をしますと、東京対地方みたいな形で対立するように受けとめられるんですけども、東京圏の首都直下型地震であるとか、あるいは生活環境も非常に厳しいですよ、通勤だとか。そういったことが緩和されるという利点も、東京にとってもあるのではないかなというふうに思っておりますし、イノベーションというのが日本国における非常に大きな課題、イノベーションをどんどん生むような環境をつくっていくということが課題だと思うのですが、そのためには、これもイノベーション理論で明らかになっていることですが、多様性というのが非常に重要であると。ところが、東京に全てが集まってくると多様性が失われていくというようなこともございまして、地方が持っているさまざまな特徴であるとか強みというものを活用して、多様性をそこでしっかりと確保しながら、東京圏の人材とか資源とも混じり合わせながらイノベーションをつくっていくという、構造的な考え方も非常に重要だというふうに思っています。

こういった観点からいいますと、一極集中是正というのは決して東京対地方の問題でもありませんし、東京をいじめているというものでもないということかというふうに考えております。むしろ日本全体の構造改革、あるいは成長を促していくためのポジティブなも

のであるというふうに考えているところでございます。

それで、先月、先ほども申し上げましたように、第2期のまち・ひと・しごと創生総合戦略が国のほうで閣議決定されましたけども、その中で、地域のSociety5.0の推進だとか、あるいは関係人口の創出といったことが盛り込まれましたので、一定の評価ができると思っておりますが、一方で、今言ったような観点から申しますと、企業の地方拠点強化、これのKPIが削除をされるというようなこともございまして、これは大変残念だなというふうに思っております。一極集中是正のためには、やはり構造的な問題から抜本的に解決をしていかなければならないと。そのためには、企業等の地方移転の促進に向けて具体的なKPIもつくって、地方創生はもう地方が計画を立て地方がやるということだけではなくて、国自身がやはりしっかりと取り組まなければならないことということを言っていかなければいけないのではないかなというふうに思っております。

そこに大きくまたかかわってくるのですが、これも平井知事、先ほど触れていただきましたが、地方分権というのも非常に重要だと思っております。先般、全国知事会の地方分権推進特別委員会の委員長として、平井知事が地方分権改革の推進に向けた研究会を設置していただきまして、これは感謝を申し上げたいと思います。12月に第1回の研究会が行われましたけれども、そのために、そこでも申し上げたのですが、地方分権というのを新しくしっかりと位置づけていくためには、国と地方の役割分担だとか、あるいはそこにまさにかかわってくる法律と条例の関係をしっかりと考えていくだとか、あるいは地方への義務づけ、枠づけですね、この見直しであるとか、こういったことについて、我々から見たあるべき姿というのをまとめて国に提言をしていきたいというふうに思っております。

また一方で、地方側においても意識改革が必要だと思っております。何でも国にお願いしますということはもうやめたほうがいいのではないかなと。我々でできることは我々自身でつくって行って、そして、それを国に提案をしていくと。何か障害があったらむしろ国にそれを取り除くようお願いをすとか、そういったアプローチも必要なんじゃないかなと思っておりますが、これも平井知事がその会議のときにおっしゃっていましたように、例えば鳥取では危険ドラッグ条例などもつくられておるわけでございますけども、まさにこれは地方でできることを地方で行っているというような事例だと思っております。こういった具体的な行動を我々自身でつくっていくということについて連携して進めていきたいというふうに思っておりますので、ぜひよろしくをお願いをしたいと思います。

■平井知事 ありがとうございます。中山間地もあわせてと。

■湯崎知事 わかりました、済みません、失礼しました。

それから、今、資料2はもう少し飛ばしてしまったんですが、資料3をごらんいただければと思いますが、これも御承知のとおりのことだと思いますけども、中山間地域が今、総人口、大きく減っております、広島県の場合、これ全過疎市町で見いておりますけども、平成27年、24万人いたのですが、令和27年までには約4割減少する見込みになっていまして、生産年齢人口でいいますと、もう半減をするという見込みであります。このままだと人口の再生産が進まないというのはもう当然ですが、もう農林水産業だとか、あるいは中小企業の担い手もいなくなるということで、コミュニティ自体が維持できなくなっていくのではないかなというふうに思っております。中山間地域において、人、仕事、それから生活環境というのをそれぞれ好循環させていくということを我々は取組として進めているのですが、特に人づくりに力を入れているところでございます。

その中で、実は、里山ウェーブ拡大プロジェクトというものを行っております、これは2ページの右下のほうにございますけれども、これは地域貢献に高い意欲を有する若者、これを首都圏で集めて、そこで議論をいろいろして、何回か交流会をやって、その人たちに特定の地域に来てもらってその課題解決を手伝ってもらおうという、こんなプロジェクトをしております。これは首都圏の人を地域に関係人口あるいは移住者として結びつける一つの取組でございます。

それから、その左側にある里山・チーム500というのがございますけども、中山間地域の将来を担っていくリーダーというのをやはりつくっていく必要があると思っておりますので、着実に育成を図って、その人たちをネットワークしていくと。そして、それをベースに活動を継続的に支援していくために、プラットフォームとして500というものをつくっております、この500というのは、500人そういったリーダーをつくらうということですが、今のところ338人、この中に登録をしております。

こういった500の皆さんの活動で、3ページのほうをご覧くださいますと、さまざまな取組が今始まっております。例えば、東広島市というところですね、載っておりますが、羊毛プロジェクト。実は、捨てられていた羊毛があったのですが、羊を飼っていて、それはもったいないので、そこから羊毛製品をつくったり、あるいは、鳥取でも同様の状況が

あると思いますけど、手つかずになっているような山林の木を使って、薪をつくって薪ビジネスを始めたとか、これは三次市になるのですが。こういったさまざまな取組が進んでおります。こういった持続可能な中山間地域を目指した取組というのは、やはり優良事例として共有していくということが非常に参考になりますので、鳥取での事例も含めて、ぜひ情報共有を図って、また、共同でできるところは一緒に進めさせていただければなというふうに思っております。

■平井知事 ありがとうございました。全面的に賛同をさせていただきたいと思っております。

まず、地方創生について、イノベーションの前提はダイバーシティ、多様性であるというのは至言でございます、この国や、あるいは地域社会の発展のために、それぞれの地域が自分のよさを生かしてアイデアを出し、やっていく。それが国全体の改革につながるのだと思います。そういうような視点で私たちも取り組んでいければというふうに思っております。

また、この地方創生もいよいよ第2期に入ろうとしています。ただ、これが正念場だと思うんですね。第1期を終わってみても結局は人口の東京圏への流入というのはとまらなかったわけでありまして、成功か失敗かよくわかりませんが、必ずしも成功したところまでは言えない状況だと言わざるを得ないと思っております。

そんな意味で、じゃあ、どうしたらいいのか、少なくとも歯どめをかける。そのためには、今、中山間地の例でおっしゃいました、ああいうように都会の若者たちにアイデアを出してもらって、こちらに来てもらうような関係人口をつくっていくとか、さらには、交流人口を膨らますことによりまして、地域の経済のパイというものを保っていく、こんなようなことが必要かなというふうに思います。ですから、今、中山間地のいい事例をいろいろとお教えいただきました。羊毛をまた活用するとか、それから、いろんな特産品とかあろうかと思っております。

私ども、先ほど行っていただいた石谷林業さんなんかも、炭をつくりまして、これがインターネットの通信販売で結構いい値で取引されると、今までこんなものが売れるとは思わなかったということなんです。今はもうネット社会になりまして、実はいろんなチャンスが中山間地にもできるということのあかしではないかと思っております。ですから、ぜひ今おっしゃったようなそういうすばらしい点を共有をさせていただき、さらには自治立法、このそれぞれのルールづくりというものを展開をしていきまして、地方創生を中山間

地から、例えば、広島県や鳥取のような中国地方からリードしていければというふうに思っています。

④高速道路の整備促進、持続可能なインフラ機能の確保

■平井知事 これに関連して高速道路やインフラにつきまして、若干私のほうからも問題提起をさせていただきたいと思いますが、いよいよ江府三次道路について、これ、県境の峠道だったわけですが、令和7年度の完成ということが中国地方整備局のほうから示されまして、出口が見えてきたということになりました。これがさらにルートが延びていけば、三次から鳥取県の江府のほうに延びていく道路になりまして、今ですと、ぐるっと米子道と中国道で迂回して走らざるを得ないんですが、三角形のもう一つの辺ができることとなります。こういうようなことなど、さまざま交通インフラを整えていくことが重要でありまして、山陰側もああいふ豪雨災害のときに、リダンダンシーとして物流や、あるいは人の流れを確保する動線にもなりました。お互いそういう補う合う関係ということもございまして、ぜひそうした山陰道を初めとしたインフラ整備に御理解をいただければと思います。

また、鳥取県では境港がいよいよ、この4月ごろになると思いますが、リニューアルオープンすることになります。今も60隻程度、外国のクルーズ船がやってくる港になっていまして、瀬戸内側の広島と並ぶような役割を果たしていると思いますが、当然ながら山の向こう側とこっち側とでそれぞれ景色も違えば、旅の彩りも変わるわけです。船で回るのにそうしたところを周遊して歩くということになりますので、ぜひこうした意味での基礎的なインフラ機能、こういうものも果たしていければと思います。

特に近年、大事なのは治水関係で、河床の掘削事業や、それから樹木の伐採などでも治水効果があらわれるということが表面化してきました。安全対策という意味でも、こういうインフラ整備は重要でありまして、政府のほうにも、しっかりと中国地方団結をして、その整備の展開を求めていければと思います。

■湯崎知事 まずもって、今御指摘ございました江府三次道路、鍵掛峠の道路ですけども、御指摘のように大きな活性化の、あるいはさまざまな安全面を図る上での重要なインフラだというふうに思っておりまして、改めて一層の事業推進、要望していきたいというふうに思っておりますし、高速道路のミッシングリンクというのは我々も非常に大きな課

題だと。広島の場合には高速道路の整備はほぼ進んでいるわけですが、山陰を中心としてさまざまな課題がまだあるというのは、これは中国地方のというよりも、我々自身の課題としても重要な課題であるというふうに思っておりますので、これもしっかりと整備が進むように依頼をしていきたいと思っております。

暫定2車線についても、これも早期に解消していく必要があるというふうに思っております。今、国のほうで着手を始めて、一部は整備が決まっておりますが、それをさらに継続をするというか、それを超える整備というの、我々として働きかけていかなければならないのではないかなというふうに思っております。

それから、今、平井知事、河床掘削であるとか木の伐採というお話もございました。これは広島の一昨年の災害においても非常に課題だというふうに認識をされまして、ただ、これ継続的に行わなければいけないということで、しばらくするとまた砂がたまってくるというようなことも含めて、しっかりと長期的に取り組んでいかなければならないことだというふうに思っております。これは全体としてインフラのメンテナンス、これをいかに効率化するかという問題だというふうに思いますので、新しい技術、それから財源確保、こういったことをしっかりと取り組みながら進めていきたいというふうに思っているところでございます。

いずれにしても、これもお話がございましたように協力をしながら、こういった安全・安心、あるいは地域交流を促進していくための必要なインフラ、地方創生にも直結をしていくということで、連携して取り組んでまいりたいというふうに思います。

■平井知事　　ありがとうございました。力強いエールもいただきましてありがとうございます。

⑤観光連携

■平井知事　　それで、このインフラを生かしながら、観光も、道路はどんどん便利になってきて、今おっしゃるような2車線が4車線になるということも含めて、陰陽結節が図られるようになれば、さらに時間、距離も短くなります。インバウンドの連携であるとか、また、高速道路が便利になりますと、サイクリングのルートも一般道が使えるようになってくるわけでございまして、そういうような副次効果も生かして、サイクリングなどスポーツリゾートを形成していくのが大事じゃないかなというふうに思っております。

実は鳥取県、広島県と同じようにエアソウルを受け入れてまいりました。広島空港さんにおかれましても、12月に、今、運休というか欠航という形になり始めています。私も今、同じような状況でございますが、そういう韓国のお客様が急減したことをさらにはね返していくことが必要です。広島の方では、タイの方から航空路線、さらにはシルクエアーといったシンガポールの関係、いわば中国地方のハブ的役割を果たしておられます。鳥取もいよいよあす、上海便が就航することになりました。今までメインランドチャイナ、中国本土の方には私たちは航空路線が長くなかったところではありますが、待望の路線があしだせることとなります。これは広島にも中国のお客様が来られていますし、ぜひ広域的な周遊をこれから図っていけないだろうかということで、改めてお願いを申し上げたいと思います。

鳥取県も入って、広島県も入って、中国地方の観光の連携の協議会がありますが、こういうものも活性化して、山陰DMOやせとうちDMOなどと役割分担もより有機的にやったりすることで、財源の有効活用なども図れるようになるんじゃないかなと思いますし、また、サイクリングについては、湯崎知事の御理解、リーダーシップでサイクリングマップができてきつつございます。こういうものに基づいて、改めて世界の皆様に長期滞在できるようなスポーツリゾートとしての中国地方というのをアピールしていければなというふうに考えているところでございまして、どうか御指導をお願い申し上げたいと思います。

■湯崎知事　ありがとうございます。広域的な周遊を図っていくということは非常に大きな課題だというふうに思っております。やはり宿泊を増やしていくと、そして滞在時間を延ばしていくと、結果として経済効果も大きくなるということでございまして、これは単県で行っていくことに非常に課題があると。これまで、今、平井知事がおっしゃっていただきました協議会、中国地方のインバウンドの推進のための協議会がございますけども、このプロモーションについても、今、せとうちDMOと山陰DMOがそれぞれ活動を始めて、ノウハウやデータを蓄積しつつあるので、この推進協議会の活動についても、こういったDMOの力をうまく活用しながら、コスト効果の高い取組を進めていくべきではないかというふうに思います。そういったことを通じて、それぞれの空港に入ってくるお客さんを広域につなげていく、あるいは、今回というか、今年のアリパラという非常に大きなチャンスにおいて、お客様をこの地域に引っ張ってきて、そして、この地域で楽しんでいただくといったことを取り組んでいく必要があるというふうに思います。我々、タイです

ね、せっかく就航しましたので、ぜひ、この鳥取を含めて周遊をしていただきたいというようなことも含めて、また協力をできればと思っておりますので、よろしくお願いします。

それから、サイクリングについてですけれども、サイクリングもおかげさまで、しまなみ海道からやまなみ街道を経由して、そして山陰を走るというルートが出来つつあります。これも今、鍵掛峠での道路が出来ていくといったようなことも含めて、また新たなルート開拓というようなこともあり得るんじゃないかなというふうに思いますので、そういったことも含めて、サイクリングの振興もさらに協力を強めて進めていければと思います。

■平井知事 ありがとうございました。

こうしたインバウンドやサイクリングルート、そうしたことでの連携について、大体共通理解が得られたというふうに思います。

以上で予定していた議題は一通りということになりますが、よろしいですかね。

⑥その他（PR項目）

■平井知事 そうしたら、それに加えて、それぞれちょっとメッセージがあればという時間帯とさせていただきたいと思いますが、まず、湯崎氏のほうからお願いを申し上げます。

■湯崎知事 これもお手元に配らせていただいているんですけども、「ひろしま はなのわ 2020」という1枚物のパンフレットでございます。これは3月19日から始まります全国都市緑化フェアでございます。これは広島県内一円でいう予定にしております。ぜひ、これだけの長期間にわたって、しかも県域全体で行うというのは初めてのことじゃないかなというふうに思っております、昨年は実は長野の阿部知事から私は引き継いで、その前は山口県の村岡知事が阿部知事に引き継がれたんですけども、いずれの県においても多くのお客様が来られて楽しんでおられますので、ぜひ鳥取県の皆様も、今年行われますこのはなのわ2020にお越しいただければと思っております。

■平井知事 ありがとうございます。

私のほうからは、後ろにちょっとポスターがありますけれども、オリパラのお話がありました。ただ、オリパラは、湯崎知事もさすがに幾ら自転車の腕がよくても参加できない

と思います。これは、ワールドマスターズゲームズというオリンピック・パラリンピックのいわばアマチュア含み版でございまして、ライフタイム、生涯スポーツをやろうと。これがオリンピックの開催国と同じ国で、その翌年行うというルールが今度の東京オリンピックから始まることとなります。ですから、次はパリで、また1年おくれでこのワールドマスターズゲームズがあるんですが、私どもはそうした中に一角入っていきまして、1つ朗報がございすけども、倉吉という県境のところ自転車競技の会場になってございまして、2月1日がエントリーが始まりますので、ぜひ知事も含めて県民の皆様にも生涯スポーツを楽しみ、また、世界中からこういうスポーツファンの方が来られますので、ぜひ交流の機会にさせていただき、できればこうして入ってきたスポーツ交流人口を中国地方で回していければなというふうに思いますので、お見知りおきいただければと思います。

あと、カニも、ことしおかげさまで1匹500万円というワールドレコードを達成することができました。兵庫県で300万円のカニが出まして、一夜にして500万でうちがまたかっさらったということでございすけども、「セカニ一キャンペーン」というのをやっていますので、今がお得でございす。今から予定が変えられるのであれば、きょうはお泊まりいただきまして、カニを食べていきますと漏れなく応募のチャンスもございすので、このほうもまたPRをしていただければと思います。

本当にきょうはありがとうございました。

■加藤部長 ありがとうございます。

そういたしますと、以上をもちまして令和元年度鳥取・広島両県知事会議を閉じさせていただきます。

記者会見

■加藤部長 引き続きまして、報道関係の皆様方からの御質問等をお受けさせていただきたいと思っております。御質問される方は恐れ入りますが、社名とお名前をおっしゃっていただいてから御質問をお願いいたします。どなた様からでも結構でございます。

じゃあ、日本海新聞さん、どうぞ。

■日本海新聞 済みません、日本海新聞の濱田と申します。よろしくお願ひします。

両知事にお聞きしたいんですけども、先ほど平井知事からの呼びかけのところで、サイ

クリングを活用した両県の連携を強化をというお話を受けて、湯崎知事のほうからも、鍵掛峠で道路ができるのであれば、新たなルートを開拓もあり得るというお話ありました。これ具体的には、青写真だと思えるんですけども、どのような形でお考えになられていますでしょうか。

■湯崎知事　いや、まだ具体的に云々ということではなくて、むしろ平井知事がおっしゃるかなと思ったので、おっしゃらなかったのが私が申し上げたということですが、いろんなルート開拓というのがあり得るのかなというふうに思っておりまして、特に今、実はE-BIKEというのが我々力を入れてやろうかと思っております、しまなみでは既に導入を始めているんですね。ところが、E-BIKEというのは、まさに山を越えていくのに非常に効果があるということでもありますので、E-BIKEって要するに電動自転車ですね。そういったものの活用をしていく上で、こういった新しい山越えというのもあり得るのではないかなというふうに思っているところでありまして、これから、じゃあ、どんなルートがやっぱりいいのか、今、やまなみ街道というのも一つあるわけですけども、いろんな検討をしていけばいいのではないかなという、そういうような感じです。

■平井知事　大体おっしゃること、私どもも賛同するわけでありますが、実は湯崎知事は当初からこのサイクリングに目をつけていただいております、日本でのサイクリング観光、これをつくられた第一人者でもいらっしゃいます。そうした御経験もいただきながら、中国地方でも今サイクリングルート形成しつつあり、国道9号線が全面的に高速道路化が近くなってきたことから、鳥取県でもこの3月ぐらいには東西を結ぶサイクリングルートをつくることになったり、また、南北でも岡山の鏡野のほうに抜けるルートを今作成、これができるということになります。もうそういう意味で、ことしはこういうサイクリングルートが一通り整う元年度ということにも、鳥取県側はなるわけでありまして、そこに、先ほどおっしゃいましたけど、まだまだルートの可能性はあるだろうと。もともと本県の場合、大山周りのルートがございまして、ここから岡山に延ばそうかということを考えていたわけでありますが、結構山岳ルートなのでどうかなということもございまして、今、佐治のほうから回す鏡野へ抜けるルートを取りあえず設定したわけでありまして、今、鍵掛峠もできてくることになれば、旧道がちょっとくねくね道ではありますけども、こちらが生きてくる可能性もあろうかなというふうに思います。ぜひこういうことを広島県さ

んや周囲の県とも連携をさせていただいて、ルート設定をさらに進捗をしていければと思います。

■湯崎知事 補足ですけども、2年前ですかね、鳥取県で中国地方知事会を行ったときに、あれは発展推進会議もあわせたときでしたけども、大山でサイクリング体験をさせていただいて、あのときには誰も山は登れないので下りだけという設定であったわけですけども、あのコースもE-BIKEがあれば、登りも含めて簡単にできるのではないかなという、大山サイクリングもますます魅力を増すのではないかなという、そんな感じで思っております。

■加藤部長 よろしいでしょうか。

■日本海新聞 そうしますと、今、ヨーロッパではやっているイーバイクを活用した、山岳のそういうサイクリングルートみたいなものを両県で連携をして進めていくというふうなお考えでよろしいですか。

■平井知事 そうですね、そういうこともぜひ視野に入れてやっていきたいというふうに思います。現実にも需要もございまして、その辺をやっていかなきゃいけない。それから、大きな大会をやりますと、鳥取県はどちらかというと後発県ということもありまして、自転車を集めるのが実は大変なんですね。特に海外から参加するお客様、本県でも200人、この間、参加する大会があったんですけど、海外から。もう集めるのが大変で、福島県とか、遠方から自転車を調達せざるを得なかったんですが、本当は中国地方の中でそういう融通のネットワークでもあって、お互いに大会時期をずらしながらやったり、そうしてサイクリングをそれぞれの地域で楽しみ、それを線でつなげていく、そういうようにどんどん展開できるようになるんじゃないかと思います。この辺は湯崎知事がエキスパートですので、私どももeバイクで何とかついていきたいと思います。

■加藤部長 ありがとうございます。

ほかに、どなたかありませんか。

じゃあ、よろしく願いいたします。

■朝日新聞 朝日新聞の齋藤といいます。今、日本海新聞の濱田さんが聞かれたことで、ちょっと理解が足りなくて重ねて質問なんです。新しいいい道路ができると、そこを使ってサイクリングをするんじゃないかと、そこを、交通量がふえるんで、それ以外のこれまでの旧道を使った、何でしょうか、中山間地を楽しみながらという、そういうようなサイクリングの可能性が広がっていくと、そういうことなんでしょうか。

■平井知事 例えば湯崎知事と島根県の溝口さんで前、お話をされて、松江自動車道ができたときに、54号線ですか、それをむしろサイクリングルート化するということがされたりしました。私どもも今度、鳥取西道路が完成をしまして、大分交通量が旧の9号線のほうに行かなくなりまして、そちらのほうはむしろ海岸を走る美しい道路ですので、そういう自転車の皆さんにも行っていただきやすくなったと。それで今ルート設定をするということです。だんだんと道路の進捗が進んでまいりますと、一気に長大ルートが完成してくるということにもなりますので、サイクリングにも生かしていこうと、こういうアイデアでございます。

■加藤部長 よろしいでしょうか。
ほかにございませんでしょうか。
よろしく申し上げます。

■中国新聞 中国新聞の小畑と申します。関連してサイクリングに絡むかどうかなんですが、タイからの路線が広島空港、就航しまして、上海から今度は米子ということですが、その便とサイクリングの振興というのは、何か生かされるのかどうか、ちょっとそのあたりを確認させていただければと思います。

■湯崎知事 まず、タイについてはノックエアさんといろんな話をしていますけども、タイのほうでも、やっぱり旅行の目的がさまざまなアクティビティーというのに関心を持っていただいているということでもあります。一つはスキーなんですね。現にノックエアの副社長さんを含めて広島のスキー場に視察に行かれて、実際に滑りに行かれています。夏の間はどうかというと、サイクリングというのは非常に大きな可能性があるというような先方の御認識でもありまして、これは恐らくその他にも開拓をするといろいろあり得るの

ではないかなと。極端な話、例えばキャンプだとか、タイにはそこまで施設も整っていないというふうに思いますし、タイはすごくいい、素晴らしいビーチがたくさんあると思うのですが、そういったいろんなアクティビティー、あるいは日本の文化体験、いろんなことがあり得るという中で、サイクリングもタイでも人気が高まっているということなので、大きな可能性の一つだというふうに思っています。中国の方もだんだんとそういう方向に来るのではないかなというふうに思っております。

■平井知事　大体一緒なことをございますけども、やはりだんだんとグループ旅行から個人旅行に今、世界の趨勢が移っています。タイもその一つでございますが、要は、ノックエアが12月に就航して中国地方にもパイプが来ることになったということでもあります。

本県は、このたび、多分春ごろ、1万人規模で旅行客、タイから受け入れるということが旅行会社と話ができたところをございますが、どちらかというと、それは従来型の観光になろうかと思えます。ただ、こうした航空路線をベースにして自由に動き回る、そういう旅行客向けにアクティビティー、事の観光、物でなくて事の観光というのをつくっていく必要があるかなと思えます。

上海も同じように、アクティビティーについても今案内中をございます。ただ、多分サイクリングは台湾とか、そうした国に特に嗜好性としては高くございまして、鳥取県のほうとしては、今、「鳥取すごい！ライド」とか、そうしたところを中心にした誘客をまずは図りながら、定着を図っていくということではないかと思っております。

■加藤部長　そういたしますと、ほかにございませんでしょうか。

ございますか、よろしく申し上げます。

■共同通信　共同通信の遠矢といいます。両知事にお伺いしたいんですが、地方創生のところで、人口の流出というのが広島県を含めて鳥取県でも非常に課題になっているかと思えます。地方でできることは地方でやるというふうなお話もありましたが、今後、地方からの人口流出を防ぐに当たって、何か広島県と鳥取県で例えば連携してできることがあるのかどうか、もしお考えがあれば教えていただきたいのと、具体的にどういうふうなことができるかと想定されているのか教えてください。

■平井知事　例えば先ほどおっしゃった若い方々に広島の里のほうに来ていただいて、それで指導してもらうというようなお話がございました。こういう関係人口的な交流というのを共同でやったりすることは一つはあり得るんじゃないかなというふうに思っていますし、移住関係のフェアなども、こうした地域的なまとまりの中で展開していくことは共同事業として可能ではないかと思っております。現実にも今もいろんなフェアがあったりしますけれども、中国地方で共同してやったり、また、この2月の9日の日だったと思いますが、広島県と鳥取県と、それからほかの県も連携をして、東京の有楽町のほうで地方への移住を促進するフェア、フェスティバルをさせていただくことにいたしております。共通の課題で折り合えるところだと思いますし、共同することで発信力が高まったり、来られた方も満足度が高まることになると思いますので、いろんな連携を図っていきたいと思います。

■湯崎知事　今、平井知事がおっしゃったとおりでございまして、いろんな首都圏から人を呼び込んでくるための仕掛けというのはそれぞれやっているところですけども、必ずしも絶対に広島県なんだとか、絶対に鳥取県なんだということもなくて、地方にかかわりたいとか、あるいは地方に移住したいというふうに漠然に思っている方もたくさんいらっしゃいます。そういう意味では、広島県の強みであるとか、あるいは鳥取県の強みというのはそれぞれ違いますので、まず幅広くキャッチをして、その中で我々が共同して、それぞれの魅力なり持っているものをお伝えすることによって、だんだんとかかわりたい、あるいは移住したいという方々の関心が形づくられるというか、シェープされていくというか、そういうようなこともあると思います。

したがって、いろんな取り組みを特に近隣県で共同してやるというのは意義が高いと思いますし、具体的にはいろんなことがあると思いますので、また相談しながら進めることができると思います。

■共同通信　済みません、追加でよろしいでしょうか。今のお話だと、例えば広島県に首都圏の人が来たときに、たまたま広島ではマッチするのがなかったけれども、鳥取だったらマッチしそうなものがあるといった場合に、例えば紹介するといったようなこともあり得るということでしょうか。

■平井知事 それは事業の組み方だと思います。今後、また広島県さんとも相談したいと思うんですけども、同じような例で言えば、岡山と鳥取と共同で、両県で移住対象ということなんですか、そういう視察の体験ツアーということをさせていただいたりしたこともございます。やはり、湯崎知事がおっしゃいましたけれども、別にどこというふうに最初から決めているわけでは必ずしもなくて、新しい新天地としてこういうところだなというイメージで、大体中国地方、あの辺かなと。それで北へ行ってみるか南へ行ってみるか、そんなようなところが正直なところだと思います。そういう意味で両方を見て体験していただく、そういうようなツアーということもこれまでやったところでもございまして、今後中国5県で、例えば就職関係であるとか、連帯してやれることもいろいろとあると思います。ぜひ相談していきたいと思います。

■湯崎知事 先ほどちょっと御紹介させていただいたんですけども、広島県の提出資料③というところの2ページに里山ウェーブ拡大プロジェクトというのがありますが、これは何をやったかという、首都圏で若い人を集めまして、そこに各市町に来てもらって、そこで市町のプレゼンをして、実はこんな課題があるとか、こんなことをやってほしいとか、そういうプレゼンをして、それに基づいて、じゃあ、この町とかこの市の課題解決のためにどんなことができるかというのを、まず首都圏で考えてもらったり勉強をしたり交流をしたりをして、その皆さんに実際に今度は当該市や町に来てもらって、それで、地元の人と共同していろんなプロジェクトを行うといったようなことをやったんですね。この中で、例えば、ここにも神石高原町と三次というのがありますけども、府中市の上下町というところがありまして、そこへ来て、みんなで昔のデパートを改装して、お客さんと呼んでくるプロジェクトを首都圏のそういう子たちが企画をしてやってもらったりとか、あるいは、ここに上がっていますのは、三次スナックめぐりというのがありますけども、そこで活動した皆さんが月に1回ぐらいかな、新橋のスナックでこの三次スナックめぐりというのを開くと、継続して三次について語るというようなことを首都圏でやって、そういう中で三次にまた来るわけですよ。こんなことをやっているんですけど、そこの今の入り口みたいなのが今たまたま広島県の市や町合同でやったんですけども、そういったことを中国各県とか、あるいは鳥取と広島で連携してやったら、そこの入り口にまずやってきて、そこから振り分けられて各地域にかかわっていただくとか、またその横連携がもうできるかもとか、そんなことがあるんじゃないかなというふうに思っています。

■加藤部長　　ありがとうございました。

　　そういたしますと、予定の時間となりました。これをもって記者会見を終了させていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。